

産学協働イノベーション人材育成シンポジウム2018

オープンイノベーションに向けた《新しいインターンシップのかたち》 イノベーションを見る眼・生み出す力

本協議会主催のシンポジウム「オープンイノベーションに向けた《新しいインターンシップ》のかたち—イノベーションを見る眼・生み出す力—」には、企業関係者33名、大学関係者44名、官庁・団体から11名、総勢96名の皆さまにご参加いただきました。本事業が、研究インターンシップの普及を通して、多様な場で活躍できる人材育成と共にイノベーション創出を志向する取り組みであることを、参加者の皆様に深くご理解いただく機会となりました。

開催報告

開会のご挨拶

(以下、敬称略)

一般社団法人産学協働イノベーション人材育成協議会 代表理事 **北野正雄** (京大大学理事・副学長)

シンポジウム参加者およびご来賓への謝辞に続き、協議会の設立背景と実績についてご報告をいただきました。本事業が教育プログラムとしての一面を持ち、学生が研究インターンシップに参加することで大学と企業の研究相違から気づきを得て、その後の大学での研究活動に活かすことや、キャリア形成の指針をつくる機会となることなどについて言及されました。また、企業にとっては、博士人材の活用とイノベーションへつなげる場となることが期待されるなど、本事業の活動意義についてお話しをいただきました。



ご来賓挨拶

経済産業省 産業技術環境局長 **飯田祐二**

理系人材の社会貢献への期待を述べられるとともに、高度な専門知識をもつ大学・企業の人材が協働することによるオープンイノベーションの創出がますます重要となっていることについて言及されました。協働の場が不足しているなかで、本事業の取り組みの有効性についてお話しをいただきました。

文部科学省 高等教育局 専門教育課 企画官 **寺坂公佑**

産学連携を促進するうえで大学・学生・企業間における相互理解を深めていくことが求められており、研究型インターンシップの取り組みを社会に向けて広く周知していく必要性についてご指摘いただきました。また、本事業に対してより多くのご支援をいただけるよう呼びかけていただきました。

基調講演 「イノベーションを見る眼・生み出す力」

一橋大学大学院経営管理研究科・イノベーション研究センター教授 **軽部 大**

イノベーションについて大変変な富んだお話をしていただきました。経営者が外部環境への関与と越境を志向していかない限り、現場ひいては会社/社会の変革は実現できません。イノベーションを生み出すには協働が不可欠であること、また、そうした協働を実現するうえで、日本企業が抱えている課題について解説いただきました。



本協議会の取り組みについて

一般社団法人産学協働イノベーション人材育成協議会 事業責任者 **藤森義弘**

協議会の概要や成果と共に、協議会の目指すインターンシップや、スキル習得に関して説明いたしました。今年度の重点施策である数理・情報分野でのインターンシップ取り組みの強化について、また幅広い企業様の事業参画についてお願いいたしました。

学生・コーディネーター・企業報告



東北大学大学院理学研究科物理専攻

黒子めぐみ

神戸大学・九州大学コーディネーター

池田博榮

三菱電機株式会社
先端技術総合研究所 技術顧問
古藤 悟

学生報告として、三菱電機株式会社での研究インターンシップに約2ヵ月間参加した経験から得た学びについて語っていただきました。インターンシップへ参加する一歩を踏み出す重要性や、大学の研究との関連性についてご説明いただきました。

大学コーディネーターの観点からは、昨今の修士・博士課程人材の動向とマッチング状況についてご報告いただきました。

企業報告では、研究インターンシップをより活発化するための大学・学生に対するご提案や、インターンシップ受け入れにおける工夫・課題についてお話しをいただきました。

大学報告 「イノベーションにおける数学界の役割」

九州大学 マス・フォア・インダストリ研究所 教授 **福本康秀**

数学界が産業界に積極的にアクセスしている最近の状況について具体的な事例を交えてお話しをいただきました。社会科学と数理学という異分野の知識を融合させることによって、新たな社会システムをデザインしていくプロセスについて詳細に解説いただきました。研究機関と産業界が協働して共同研究の発展を促していく流れをご説明いただき、今後の産学連携のあり方に対する知見を述べていただきました。



開会のご挨拶

一般社団法人産学協働イノベーション人材育成協議会 理事 **小林正博** (ダイキン工業株式会社 専任役員)

本シンポジウムの開催意義の再確認と共に、本日のご登壇者への謝辞を述べていただきました。会員大学・企業関係者の皆さまのより一層のご支援を戴きたい旨、また本事業にご賛同いただける企業様のご入会のお願いをおこないシンポジウムを終了いたしました。

